

釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の
顔
□中□

58年に高後賞
を受賞

「先生やディスクールシ
ユルの仲間、そして何よ
りも家族の支えがあつ
て、これまでピアノの道
を歩いて来られた」と受
賞に感激の表情。

校入学前からピアノに親
しみ、小・中・高校を通
じて佐藤順子先生に師事
した。また「小学校時代
の担任の先生のオルガン
演奏に感銘したことも覚
えている」という。

笠原茂子さん(四〇)
(白糠町西一南四)

音楽(ピアノ)

ノサップ音楽
セミにも出演

演奏会ではビゼー、シ
ューベルトにリストなど
多くの作曲家の作品を演
奏するが「ラームスの
持つ渋さが好き」という。

またラクマニノフ、チャ
イコフスキイの作品も愛
している。

三年前からは全国から
音楽家が集まる、根室市
でのノサップ音楽セミナ
ーに参加している。荒谷
先生から「外に出て勉強
した方が良い」といわれ
たのが参加の動機になっ
た。「音楽的に大きな相違
は感じなかった」と話す
もタシュテファン・シー

痺身のため、病弱に受
け取られがちだが「健康
には絶対の自信がある」
といい切る。それでも演
奏会に向けては体調もベ
ストの状態となるよう、
いつもコンディショニング
くりを心がけている。



ラームスの渋さが好きーと受賞を喜ぶ笠原さん

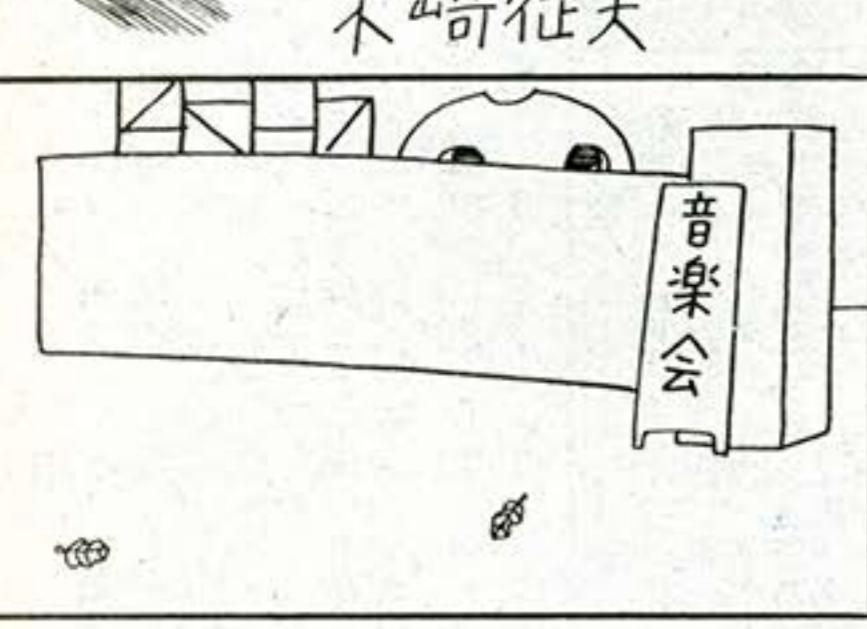
質の高い演奏を披露 積極的に外部と共演も

釧路音楽協会から、その
年に一番すぐれた演奏活
動を行ったとして高後賞

は末広誠氏指揮札幌交響
楽団団友オーケストラ
とモーツアルト作曲ピア
ノ協奏曲二番ハ長調K
四六七を、さらにホルン
のタバでプロの演奏家と
MOOコンサートなど、
常に質の高い演奏を披露
している。

バス教授の枠にはめない
指導法には大きな感銘を
受け、不断の努力の糧と
している。

ア・パレード
木崎征夫



が贈られた。

六十三年には釧路交響

協奏曲二長調を、平成三